



本草乃茶之形也似人老
いふ物のこころは遠く
見のち後し花のたふを人老
言ひ禁親毎者似有る子
根すしきし香那道は年句
かまふせし其六二名は片禁

つゝをばしぐさ草の御
まゝとてはたはのいひ
らひのたをりまはれをて
あそびおひさしにたのむ
思ひはかまひのあそび
みよまよふ路のたぬし

おとけ花を笑せし所
きしつゝおしるまのむ
思ひのあつた神の里
うのむらゝたえおひ
芭蕉のたのむ紙茶
のつじなり又ゆるみ

尺渡し子奴とてろ祝の寸流
 とはれくしの象城とてし只
 心もみちひし海羽雪くちる花
 石井の侍とての島其竟者

孫りの淑蔭

		西	碓	林	丹	松	由	菅	名家古人之部
近	大	赤	浪	卓	山	祖	誓	札	
江	坂	甫	高	郎	外	心	謀	梅	
乙	素	九	野	丁	清	梅	西	風	
也	屋	起	空	出	氏	笠	三	郎	
文	源	捨	懸	而	惟	安	梅	悠	
友	有	山	池	依	字	又	通	年	
	杜	香	久	公	宍	松	卓	悠	
	崎	畦	海	成	々	養	池	々	
美	招	自	良	航	令	水	一	所	
濃	懐	長	大	是	用	壘	号	大	
山	宇	漁	波	清	万	得	多	造	
子	天	藻	同	風	古	夢	々	洲	

	九	速	尋	蓮	三	尾	柏	羅	蕨	筑
越	江	水	香	亨	楓	乘	系	村	小	前
後	可		太		疎	士	有	逸		亨
市	香	甲		遠	流	梅			出	
猿	苦	斐		江	聚	程			雲	
雪		伊	杜	杜	芝	野	越	加	曲	豐
溪		勢	水	水	梧	安	中	賀	川	後
弊	信	洗	嵐	素	素	玄	旌	柳		吳
史	濃	香	牛	頂	頂	立	石	臺		石
	平	和				羽	可	雲	阿	丘
	沙	隣				洲	岩	代	波	焉
磐	水	由	伊	駿	三	逸		大	在	石
城	壘	章	田	河	河	志		夢	一	女

危	不	相	不	可	香		那	左
危	柔	林	柔	道	真		左	升
為	子	汀	柔	下		陸	京	風
曉	巴	砂	一	總		中	河	志
孫	子			月	下	比	六	葉
園	似	携	上	拊	毛	一	柁	鳴
乙		相	他	旭	單			兄
甄		換	山	高	欣			二
棠	上	以	景	一	友	羽	岩	柳
源	毛	數	文	覺	推	俊	代	臺
春	梁	六	山	露	鏡	素	壯	夷
象	壘	五	楓	丘	花	山	山	精
秋	可	速	山	喜	未	吟	去	躬
在	一	存	多	年	費	風	富	我

夏煙	抱壺	鳳卽	玄壽	葉欒	一嘗	一龍
名山	翠崇	吾東	琴和	葉丘	素水	翠山
奇松	而來	吳山	琴交	幹高	願雄	花月
其門	李島	牛臨	琴露	通古	平三	存仙
枯水	乃及	柳園	兄九	石外	茹宜	葉古
井角	采室	守湖		東京	為山	又外
莫淵	甘海	水哉	壽人	乙產	永襟	美表
如白	河德	秀奇	已休	紫馨	林甫	海女
二柳	子配	唯萍	燕平	沙山	舒之	仙月
菊雄	長洲	之夕	月夕	思樂	竹東	存表
葉子	寧山	弘曼	形勢	約厚	松甫	甘原

青直	素水	木旭	柳仙	葉成	來信	葉泉
木和	東枝	存長	未悅	乙雅	善兒	是二
長龍	有源		武藏	完臨	此木	涼花
茶賦	知泉	其彭	隆休	隆外	嘉外	三葉
喜山	梅葉	素崇	管雅	一知	喜涯	青布
井之	流松	月采	大歌	子奉	來之	峰在
友昇	務香	管之	一望	竹甫	又車	求香
喜友	一本	好文	如書	葉升	一文	孤地
勝良	茂象	梅布	背龍	角丈	經丈	武丁
奇三	幾月	喜月	朱慶	如燕	小葉	葉竹
喜嘗	妙秋	安女	三好	長崎	耳之	竹海

皆如	在	察	峰	内	洒	家	遊	臺	嘗	雨	蒜	蒜
可	号	在	崎	野	輝	有	初	古	玉	村	外	友
一	世	之	四	席	石	梅	之	一	傳	語	陵	鶴
有	柳	竹	株	可	矣	家	肉	毒	幸	海	外	有
号	木	井	榭	而	耕	遊	山	之	和	之	美	永
月	性	德	志	八	四	旦	宝	吟	標	香	不	足
五	浚	下	仙	古	与	竹	精	富	積	概	盡	一
新	湖	竹	里	宝	丹	法	奇	子	逸	い	ろ	は
用	山	杉	丹	丁	美	葉	丸	河	月	概	盡	盡
吉	崎	竹	旗	光	隆	德	輔	一	井	約	湖	野

春の節

正月	睦	月	元	日	以	春	花	寿	園	春	内	代
之	節	美	初	之	初	日	初	鳥	初	嘉	初	嘉
初	曆	之	美	彩	養	當	當	古	方	井	井	井
屠	藕	蓮	菜	吟	積	庭	電	年	礼	年	玉	年
水	祝	福	積	福	上	懸	之	文	遥	初	乃	菜
着	衣	弓	始	弓	葉	初	前	玉	初	云	乃	日
子	日	小	招	曳	乃	菜	七	種	芥	破	乃	日
壯	牙	花	可	精	引	乃	上	也	保	偶	師	破

鷓鴣	雉子	二月	冻解	待露	海苔	泊山	多草	稠曳	羽子
忙	乙鳥	夜更	水温	东风	乃布	峰子	子字	梅	福川
蜂	弱鳥	二月	霏	去風	散入	下子	芦芽	卯梅	卯杖
蜂	鳥	初年	去雨	残雪	踏踏	白魚	木芽	柳	番却
田螺	鴨	正月	山吹	法名	晦之	規	管	梅柳	削葱
陀定	子	温藥	依保	去名	去名	蛤	鸞	薑	太長
葛	子	彼岸		雪鱸	子	柳	釣	下	爆竹

地中	初雷	程卸	嫁菜	初花	孺生	匡日	不然	柳	蓬	春山
猪忘	残雪	水以	菜花	初梅	雛	春日	梅	柳	葱	真海
原麻	出代	子殿	梅子		白酒	也	花	躑躅	子	春水
落角	燒野	種芋	菊根		芋	炸塞	落毛	木	鳥	外春
系迹	山鏡	獨活	梅木		芋	菜梅	茶	山	川	春情
陽	烟	土	松		芋	芋	芋	山	川	春情
初	苗	席	竹		芋	芋	芋	山	川	春情
切	代	杖	系		芋	芋	芋	山	川	春情

夏の部

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏
菰	大	花	夏	招	一	夏	夏	夏

通計二百十六題

改

改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改
改	改	改	改	改	改	改	改	改

文	郎	友	生	冷	納	汗	雲	嘉	一
月	後	瘦	業	汁	涼	拭	峰	定	月
立	秋	友	夕	麩	打	掛	友	友	友
夕	秋	友	秋	梅	水	香	月	友	友
初	秋	友	友	于	清	日	風	友	友
七	秋	友	友	把	水	寧	友	友	友
夕	秋	友	友	把	井	葉	友	友	友
星	秋	友	友	川	一	什	友	友	友
夕	秋	友	友	特	杯	丈	友	友	友
立	秋	友	友	冲	何	人	友	友	友
琴	秋	友	友	脩	右	抱	友	友	友
	秋	友	友	虫	友	籠	友	友	友
	秋	友	友	友	友	涼	友	友	友
	秋	友	友	友	友	臺	友	友	友

秋の節

通斗百九十額

形	本	学	刺	苧	近	形	稻	嘉
系	花	花	鱗	苧	火	系	毒	定
袋	荒	荒	大	苧	火	袋	毒	友
小	尾	尾	大	苧	火	小	毒	友
細	花	花	火	苧	火	細	毒	友
尻	枯	枯	友	苧	火	尻	毒	友
洗	枝	枝	友	苧	火	洗	毒	友
推	荃	荃	友	苧	火	推	毒	友
葉	花	花	友	苧	火	葉	毒	友
新	天	天	友	苧	火	新	毒	友
河	白	白	友	苧	火	河	毒	友
草	系	系	友	苧	火	草	毒	友
市	秋	秋	友	苧	火	市	毒	友
匠	蟬	蟬	友	苧	火	匠	毒	友
征			友	苧	火	征	毒	友

五節

二

鳥鳴集

紙葉軒野井撰
埴之屋一理喜校
季秋庵俄又

春之部

正月

正月也酒乎——まへハ雨よな

一具

正月や人の身ぬ口を

際や

風志

正月も床の地をハ楮火う那

喜布

正月や着る急傍りよな

一程喜

正月

初る志下ぬ風まらひ

波回

何と古く候も彩母——き

悠志

元日

元日や一鬼印一久年を繰の

梅室

元日や字守を守る 静

静交

元日や居るくらのの由の

未返

元日や客のよふてぬ結を

月礎

元日や燈一青う名のり

交精

元日や終りゆは昼未

見二

園歌のうは元日の

牡丹

元日や沖の柳うら

川四五

元日やおもしろあらの

窓吹

元日やあふらと花子

青吟

元日やまきのふを

俄友

山位や其方その佳

一案詠

丁度よふ程よ眼

俄友

雲より子も縹

完臨

起きけと笑新め

松月

歳暮古時の名

萬壽

りよふ物数

以静

御代去利松川も

善翁

筆は書て中

秋五

本朝去来

ふ足

また強うつ

ふ松

初定

徳はしとて初まゝ歌くはつり里く
 初定や所奈はきま 美乳山 五休
 初まはたきかろきまを細か下
 たらたみけし舞後るや山のま
 初まらもたの子屋はは林の
 けりきやあま方治のやと 平 富隆
 むとくし聖初定のそとゆよとり 聖井
 深是也くおもくき初日は出 尺外
 さき石の苔も初甲人はつりの半 赤水
 水たのめて誓対結ししと白日 椿友
 初まはたきかろきまを細か下
 たらたみけし舞後るや山のま
 初まらもたの子屋はは林の
 けりきやあま方治のやと 平 富隆
 むとくし聖初定のそとゆよとり 聖井
 深是也くおもくき初日は出 尺外
 さき石の苔も初甲人はつりの半 赤水
 水たのめて誓対結ししと白日 椿友

初日

初鳥

戸を叩てきり字もや初日の出 成之
 浪風よ眼をすく志欠て初日は出 聖子
 さ波をわくて舞もけつ日うれ 長共
 酒花もさつとつりまの源之 甘海
 はつ鶴の波やあはれとちおろつ 羨毒
 元津霧や身よ恵とめ先ひら 紫蟹
 まらとりや初たと枕の空ぬぬ 竹精
 初ま里を少てあら乃流りあり 長共
 去年の塵拂子羽おろや鶴の糸 喜吹
 巴の初の雲より出てはつかた 士為

初鳥

初鳥續いり春明かききり

梅室

昔より目も覚てあてし津かた

卜仙

けりあつた子むと啼のりの歩

宋之

いきりぬら乃巻礼やそつら

聖草

初うら寸目よりあゆみさく

俄友

起ときをわらふ愛と花は片鳥

聖井

はつあまのる出る時ほつとさる

竹良

初人よ海くく足ゆるや

見二

初うらまゝあともたう

夏燈

初め足るあかふあそく

孫園

水鳥とあそびあそび

林甫

初東風

初東風初東風又向ふや

抱壺

あつたあつたあつたあつた

安女

初東風也申のかみ相る

子本

おきうりのと毛之皆戸の

立意

は情や

糧水

あさうりや旭の都下よあ

而耕

は情よ見よ歩ん島

書共

去年

書派

去年歩ん在籍

遊山

門水

全終

門まのや 荏ふそ 軒ハ 善哉とり
 二極
 門松や 雨ふま 山の方
 噴霧
 二本結ね 木方や うさで松
 まあ
 かと松よ だれきり 竹家
 青糸
 門まの 冬た 月の家 中よ 竹
 来之
 かと松 解ぬ 家 冬を 花 込
 文車
 くれ 連ふ 袖よ 白ふ 也か たり 松
 富候
 輪かさ 里を 持は 風や 中
 然平
 痛う せり 也 農具も 家 竹 備へ 松
 海花
 とう 先の 知れ 字 竹 竹 竹 竹
 二柳
 幸簞 昔 簞 竹 古 風 の 中 の 竹 竹 竹 竹
 幸 簞
 昔 簞 の 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 幸 簞

小辰 糸へ 多ら 皆 向く 竹 小辰 糸
 是 竹
 水天 似き 形の 三 竹 竹 竹 竹
 善竹
 看屋 の 喉 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 聖草
 はさ 玉も 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 桃喜
 掛鯛 竹 店 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 一 竹 喜
 勝海 老 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 青糸
 眼や 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 青和
 あり の 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 井 竹
 ぬき 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 古 竹
 福 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹 竹
 梅 竹

福壽子 咲可物了 返る 大さう 福壽子 弘治

多摩川 下流 藤原 山間 水 ぬえ 日 乙 龍

極 えて いき 本 川 浦 ぬえ 日 長 共

嵐 浦 へ ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

吉方 大 穴 へ ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

を 是 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

雅 子 也 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

火 子 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

ゆ ぬ ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

何 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

又水 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

多 水 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

壁 水 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

井 開 井 水 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

井 水 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

初 水 井 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

初 水 井 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

初 水 井 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

只 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

多 美 市 一 ち ち ち ち ぬえ 日 長 共

尾電

年礼

年玉

唯此之也二品之志形 手作也
 活地へそのの之調りや塵う留と
 家古ら、任那へ ありや庭うま
 著て素き帯之よりいれ若くは
 年礼や実小中らなる人乃うけ
 手続も物らわねうしめ田舎外
 年終の束袖言へたまる庭友
 手行小帯み瀧玉 袴うね
 馬この手新を所ふ と交、の
 年玉や反古よくるみ一前一箱法
 と一玉も世の古き之 手風呂袋

文車 菊籠 聖井 築寺 一龜 素友 一書 水香 袴良 花玉

年男

水楊

稲穂

年取まや隙回士のしらひも能
 唯多ると一玉を壁のうさそ外
 年取りのりよくとくと 年 男
 手をと出た公よりあうまより
 内中うとりはねさおとと一男
 何れものも働きあやや年をとと
 水楊ひまいくととと 人も花
 以てくも小其月の果熟うね
 字くる帯おのり中へし水鏡也
 手法すねんらん若の若る時分
 稲穂よりぬる色とア金へう風

文車 静湖 岳山 角椎 桐馬 碧池 香堂 蘭旗 菊欣 手鏡 井之

三巻日多ち戸地午月の夕を三今日 桑歌

とものをぬるくそをけき三今日 長歌

あふちを倒のちうさや三今日 両耕

炭竈の桐りもまきさしこみち 玄喜

かましをた回しりか形三今日 案語

音の火をつこまぬ物也三今日 楓山

齒河うのまき物形三今日 兼欣

人日 人のりや藤葉を飛く庭のまり 高と女

静さや雪も人かひ結て降ぬ 高と女

唱さしを風のやま水し子の日 石左

子の日とるかお小とくと旭ら 音喜

松を見とてまら子の日 桑古

よきそへかきし淋しや初子日 菊也

いひまら高松の松やほつ子日 菊也

初老の時

まらまら杖引をまらまら日 月祥

小松曳よりまらハ水世も小まら引 松什

其あまらあふ人あり 小松引 完酔

強迷あまらハありまらカまつ引 宇彦

神か形よはゆるまらカ松ひ脱 安女

世は濡ぬまらし初や 小松引 連水

ゆたまりさかを始や小松曳 菊也

七種

芥 蓄

ひとくち... 小葉
 友一
 可也
 一葉
 法書
 智秋
 完臨
 待良
 桑百
 風即

七種

店節 帳釘 花開

打伝... 二極
 毒友
 嵐松
 為山
 如水
 如甫
 文車
 集丸
 静洲
 南太
 毒山

祖公

新しきうの田原しんしんしん

式法めきめをまやさせたまはし

猿引しんしんしん程をまをさう

さうしんやまをさうしんしん

森しんをさうしんしんしん

香おんのかしんしんしん

をさうしんしんしんしん

保保しんしんしんしんしん

来をりしんしんしんしん

破唐弓破唐弓の英先しんしん

をさうしんしんしんしん

破唐弓を勝りおきしんしん

はるしんやけりしんしん

神初やけりしんしんしん

黒崎めうしんやけりしんしん

あねのしんしんしんしん

之り月を越ししんしんしん

有れしんしんしんしん

やしんしんしんしんしん

並相子のしんしんしんしん

福引しんしんしんしん

福引しんしんしんしん

鳥造

新しきうの田原しんしんしん

式法めきめをまやさせたまはし

猿引しんしんしん程をまをさう

さうしんやまをさうしんしん

森しんをさうしんしんしん

香おんのかしんしんしん

をさうしんしんしんしん

保保しんしんしんしんしん

来をりしんしんしんしん

破唐弓破唐弓の英先しんしん

をさうしんしんしんしん

破唐弓を勝りおきしんしん

はるしんやけりしんしん

神初やけりしんしんしん

黒崎めうしんやけりしんしん

あねのしんしんしんしん

之り月を越ししんしんしん

有れしんしんしんしん

やしんしんしんしんしん

並相子のしんしんしんしん

福引しんしんしんしん

福引しんしんしんしん

手鞠

新しきうの田原しんしんしん

式法めきめをまやさせたまはし

猿引しんしんしん程をまをさう

さうしんやまをさうしんしん

森しんをさうしんしんしん

香おんのかしんしんしん

をさうしんしんしんしん

保保しんしんしんしんしん

来をりしんしんしんしん

破唐弓破唐弓の英先しんしん

をさうしんしんしんしん

破唐弓を勝りおきしんしん

はるしんやけりしんしん

神初やけりしんしんしん

黒崎めうしんやけりしんしん

あねのしんしんしんしん

之り月を越ししんしんしん

有れしんしんしんしん

やしんしんしんしんしん

並相子のしんしんしんしん

福引しんしんしんしん

福引しんしんしんしん

福引

新しきうの田原しんしんしん

式法めきめをまやさせたまはし

猿引しんしんしん程をまをさう

さうしんやまをさうしんしん

森しんをさうしんしんしん

香おんのかしんしんしん

をさうしんしんしんしん

保保しんしんしんしんしん

来をりしんしんしんしん

破唐弓破唐弓の英先しんしん

をさうしんしんしんしん

破唐弓を勝りおきしんしん

はるしんやけりしんしん

神初やけりしんしんしん

黒崎めうしんやけりしんしん

あねのしんしんしんしん

之り月を越ししんしんしん

有れしんしんしんしん

やしんしんしんしんしん

並相子のしんしんしんしん

福引しんしんしんしん

福引しんしんしんしん

中戸とつふう聲歌わて梅のむ 然平
 活屠びく薫アこりり 月夜こり
 冬米咲て誰さぬ口と来よこり
 山吹又香のたしこりり梅のむ 文友
 風を梅や梅とも形しよ付於そ 井隆
 壺し言梅盗人と遊しあり 魁丈
 二あち形ふきあかり梅のけふ 名山
 教多を梅もとぬ梅はさうり 長山
 枯枝もりきこりり梅のむ 王た
 梅はくや山よ流ひくそい村 ころ
 たりてかき風のつく坂や梅のむ 聖井

お梅

お梅や湯入 あまの料理ろい 要五
 お梅や垣結おけ言花のるる 文徳
 お梅や 笑くして遠又る 女家 義直
 江梅や鳥の活き茂 けりき 橋鳥
 善島りりり 養弟 柳うあ 甘海
 巨徳りり 尺さる色つく 柳外 月采
 善よあや又ぬく古の梅 じ 築春
 かの能家もろくしてきぬ柳 北 羽海
 困末のくさるさぬり梅の南 本年
 静き平舞いてるすをよきうれ 孝家
 阿たん柳 一人さて通事なり 思業

柳

鶯とあつろつりぬけり音 くらふ 藤原
 鶯やうとくとりけり江の深ふ 香芸
 鶯の音やけふも空のぬきふと 糴水
 鶯の園子素て鳴 聖徳の那 竹束
 鶯や音はゆりゆり 向むる 北山
 くらま音や軽木も白ふ 山日和 可音
 新鷹や野を足平にして峰は松 一音
 伯山 且の音の鈴も歩えつ伯山やま 弘道
 峰子音り家の見うけて走り 峰子音 案源
 百子音百ちり鳴や西の生色山のまね 智秋
 小音こよま在り明やや百ちり 一音

白鳥

白鳥 志く魚やは色梅も在けり 柳童
 白鳥や家の出ぬ間よ見えず成 大教
 白鳥の音も多たなり 白魚録 王た
 よまけり音もよ志那進志 小 妙華
 志り那り行 徳もも 柳布
 三今日出きり門よ志 可音
 雲町をさして中もや 可音
 志し 志も 可音
 兼つとの舎と水 渡舟うれ 上仙
 汐時辰志つる干沼や 可音 城友

柳

柳

海苔

海苔よ来やうりとの波や昼志
 川止や旅路の強う阿ふりけり
 寺へは是海苔うりよ同きあり
 曉は里に立居の風の知り丸意
 又和弟後うりもゆりせは形一りとの免汁
 養父入屋更のや心満う旅の家り刻之
 義以事の淡きうりおおひみり
 養父入の屋ふりはきて通利けり
 藪い里の押はけりき天狗病外
 や女の事の足音高しおしり振
 名らうりうり食交も遊むあり

水壺
 子報
 養友
 歌月
 要五
 内誓
 二板
 静交
 桃雲
 喜懸

画徳

飯室

画徳うりうり世西うりて元たり
 片つりそりもや余意の杉ひの末
 唐子も己んやよかんの鱈 皿
 唐あげて唐やゆきの唐の白
 この浦より唐書へ渡海のおりも唐か
 けまうり活意とまへる交よ一活き
 喜交うり街ちうりうり後路
 ありきもさしうりうり岩の江連
 眼かしきうり海うり水の水ゆり
 さえうりうりうりすむはき
 神林ゆをうりうりうりむ聖風成

飯友
 茶几
 菜壺
 甘露
 俄友
 杜海
 夢和
 青家
 梅經

凍る 凍とけや車の伝りあめよ
水温 玉川やぬるこく言に戸の水
静水

暖 華ふりさる口を水の温みあり
静水 下たこのりや成けさしそらる
静水

若 重藤やよなも口ぬく 泡の飛沫
静水 露よえさりて癒し 静水あり
静水

長栄 ぬくうさや子りもあつた刺湯
静水 人獨ふりしと、のぬ堤う那
静水

長栄 長栄きまよと雪よき火桶り
静水 海川の春も世困あり楊の静水
静水

長栄 づかきや地収持て人も静水
静水 木鏡の春も長栄し 垣のうら
静水

長栄 長栄さや静水家とる人乃 静水
静水 さ保煙さ保ひめ成夢見るさう杖うれ
静水

長栄 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水 さ保煙さ保ひめ成夢見るさう杖うれ
静水

長栄 さ保煙さ保ひめ成夢見るさう杖うれ
静水 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水

長栄 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水

長栄 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水

長栄 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水

長栄 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水

長栄 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水 静水保ひ更や夢て鏡のわらう静水
静水

さあさあ風のちあ日や山笑ふ
何事も水梅畑あり初らふ山
見二

乙月 暮つてぬ二月の人乃吐しうあ
曲聲

如月 清くのしるり御彩舟二月そら
月旭

二日 冬湯も流し合ふ初らや言茶
清音

山尺も七疊のあきとあふ二日矣
翠和

香工耐を耐てやふ初り二日矣
素白

初午 初まふ村おと修身しとあふ
世三四

初うまやけあふとあふあ波の音
新雪

初うまや初佛性言ぬ人をさう
大鼓

あ初忌不二をさうあふの付あり西ひキ
長衣

浮葉 埋けん舎や一日果のもの静
ああ

被岸 備けりあそくし初る人像
高砂

山里よよの鐘のなる初るの南
一程暮

ふとあて鯉も餌をやはあ初る
西東

梅

二五

鳥交

涼尔海苔をりるるりけりるの雨
も秋さくたや後待と彩く人ろろ
はるの秋や何と定む田は量
春の春や決りふけれ春の聲
はるは春や秋へをけぬ成布團
あううの野人ゆとりりゆ交る聲
葉ま交のるやこまこま枝移り
清て春た徒て子を抱葉と可也
葉のるををてつと見下れ山海小
油敷ちる人を見送る是とりり
春のる木り定る見ゆる送るこる

梅月 蒼北 解斎 愚師 智秋 今 款月 永高 志盛 聖井

乙

きー立糸ひ支のくもや池の水
りたさをやついでや啼た籠のこ
春葉りる定家の棟掃ふき一の聲
聖籠まもくや毎日あうる 春うり
了る程よもり出せ身ききまて
籠ぬくも おもえんすくむ心
おたより雪た色形一籠の聖籠
きー啼て笑ひ久ぬや菫の火
ほろろろんたーや野中の物りき
まー啼ーや若古すあのを乃深
水際ゆ風よまうあるはるりり

言まを 雪信 金石 破桃 修太 高峨 坊権 峰月 素美 聖井 林甫

二十五

雲之麓

乙子乃よよ修取しきあき 藤山
 主乃や一人の愚か事 門連山
 幸くうらまふと考ハ那く 寺島
 阿の西水は糸く 出上の高き水 岱年
 約きぬくや日中しよる瀧の音 表友
 和くやまことよき古葉の聲 一程表
 三つまき皆終らば 梅裡
 芝居りやとつときよかたらき 等哉
 聖原愛や晴るとりと相りうへ 月杵
 阿ら多見たり見送る病の家ま外 第欣
 浦田や下もろくく うるこ忍 月杵

雲之麓

新丁やよをうさるるよまなく 三松
 下けぬりも何よ終きて聖の重なる 沙山
 うとき眼のひけまよとくノ外 甘茶
 幸浅もあつた尺取や音とひけり 水女
 かさけ年の下よ不二なる 文友
 吹風よ聲の静も初はるるや 小菊
 蒼はきしるややと信のとく 表直
 回より引て川ハ海色も鳴はたり 椿山
 五と間あつたよとつたる 北山
 大和路よて
 高き山のまことしひらつ舞も重なる 俄友

蕉子

蕉子子るるあつちて戸と寸門
すめりるはさうや藤は戸あたら
白くそよ葉も花もはるるを免の子
風もあふくさう出たりはひら
結さもたちららよ左にまゆ胡蝶
机あきてふの園あとも、夕里
はつて輝のあつて身晴の止る息
膝とふふ靴きぬ早き細い溜
てふのきまあつて威なりし糸車
見付けし居るものもよやまのうぬ
出まらうは海や流石よ雲のうら

申聲
峰月
修太
影左
尋香
好水
出月
素白
高心
梅深
喜弟

除

花 柳 桂

ふ絲う絲と寸門や音塵の胡蝶さ
襟袖寸取の日和やまゆこて輝
影ともよふあつて池の縁
蝶舞やたしちりかきと水の上
遊のゆふりう南一は花さるり
雲さつて来て踏をや秋うらるる
そ若笠はげと天氣やちちるる
菓のけちや海より水才陰しき
一口はくちやのさや田のあせり
月を望みとら出ては、初桂
秋のよきうらうれあけりハ啼桂

菊欣
月杵
角丈
松南
素休
望井
名山
聖井
左一
棠似
柳壺

山

山

初

陽春やとち 塞う男く急木字 椿散
 陽春やとち 塞う男く急木字 一免
 陽春やとち 塞う男く急木字 春月
 初ねや 見切らぬ由よ為らり 静学
 初ねや 見切らぬ由よ為らり 一理表
 初ねや 見切らぬ由よ為らり 那井
 初雷のおもひよよぬおけのめ 静波
 おけたるおもひよよぬおけのめ 泉左
 春めくおのけのめ 静波 奇三
 山松の黒く暗くういふ波中り 旭斗
 おもひよよぬおけのめ 泉左 翠山

初雷

残雪

出代

夕らきをあやしく命の居来危 板桂
 言い掛と阿まら免安くわり命 俄左
 厚み帆のうへ越りや難水残雪 聖井
 出らりのあはれやわの松 王将
 出代てあはれ見方のあはれ 雪号
 出のけのあはれ見方のあはれ 故山
 出のけのあはれ見方のあはれ 来之
 出のけのあはれ見方のあはれ 静波
 出のけのあはれ見方のあはれ 五渡
 出のけのあはれ見方のあはれ 相林
 出のけのあはれ見方のあはれ 見二

焼

山

山

細井 也手登けやう免終子集もつり
細く古の庭実合行日とれ
細井也去こいハ向も氣は更合

苗代 多く古のさくら任せぬむり
苗去ろのをさきも果のあさむ

種節 苗一海よききうけおく香結
あき回より水の漏口をたき節

水口祭 水口祭 ちりすも水口 さつかりき
あくち又芽も持さる乳も

子藪 子藪 ちりすも水口 さつかりき
あくち又芽も持さる乳も

種芽 種芽也 林ぬくちのさき
あくち又芽も持さる乳も

種芽 種芽也 林ぬくちのさき
あくち又芽も持さる乳も

種芽 種芽也 林ぬくちのさき
あくち又芽も持さる乳も

種芽 種芽也 林ぬくちのさき
あくち又芽も持さる乳も

種芽 種芽也 林ぬくちのさき
あくち又芽も持さる乳も

種芽 種芽也 林ぬくちのさき
あくち又芽も持さる乳も

種芽 種芽也 林ぬくちのさき
あくち又芽も持さる乳も

種芽 種芽也 林ぬくちのさき
あくち又芽も持さる乳も

春日 夢見ま咲き下たらば 茶室下し 静愛

夕飯の竹片つら 夕飯をそき 号白

春の 喜ばるに流るる水あり 車 号三

花曇 け出るや陣をり 帆もそらり 曲川

煙塞 煙好さまや一日 常らるる 文海

桑搦 煙ふささ支やたつと 歌りて 茶三

桑搦 村雨の袖たぬと 桑つと 野井

桑搦 青玉木の阿のふくや 桑つみ 静波

桑搦 桑つみや春とふぬ子 子ほしと 精知

飼蠶 茶もぬし 桑茶蚕の体ふと 志盛

桑市より起りたりありあり

通身綺羅若不足春蠶人

を初るる人毛をるる 茶室 聖井

石人の先頃横もる 石純 俄友

襦袢の画馬堂 堂 三根

水かけの祖の 祖 水世

月まならの 月 重安

睡かゝる 睡 竹陰

言ふ 言 松南

猫取て見るやむぬ 猫 蒼丸

尺くも世身 尺 風潮

外外 外 梅室

花

石純 襦

おむよろうもきき後河田川 菅白
新元やあゆらうまう南河田川 甘菊

系号山

音うて教ふ誓时也田比うねり 存長
お雪の袖小用ふも一也一も水電唱 一由

お奏も出地の人ありまを橋 完酔
息さうらう懐よのう風もふ一 未曉

え融した世あを河より水を橋 未榮
山陰の空さよと礼る橋う那 護物

喚あけ一はまを歌く心 切戸口 参籠

椿

臨嘆歳さのま 和らとぬ橋水 仙月

枯枝もまを子代ふるはまを水 糲丸

忍くくと喚ああり危赤津まを 未竹

散てうら十口ゆその清まを水 柳仙

二二本吸て教免えつはあう南 集民

葉の力をう申はくぬ 椿う南 聖井

みゆ聖の里まを柳のまを白刺 梅宇

喚立てまをく後この日初る 是本

りうて初る新学部やまははな 後源
りあまよはよつとくや柳のま 通古
桑橋の袖りあうらぬ柳のま 聖井

桃

梨 藥 獨

梨垣のほく破きりるに又梨のま 静酒
花のほて葉の生れたり 白きく 原と

手あけて桶よりをよつて 外 膏粒
霜退て 一つと志たつて 一と 六葉

外の本もやうおそく 外 新々
へつあつてと山はつてしよ成よるり 惣補

島の子は齒のゆきう之木瓜のふ 一具
三日月よあけも見えす木瓜の地 一程表

山吹 山吹のよと下よありあ 能 藤原
山吹やさけの年暮のよと 和支 成之

母子草 古里のよよりやけ 母 芳草

萱 以 静

以てほらも女子ハ やせーと萱 以 静
揃と花天も 一と 藤原 角木

室を兄と目録のよきすく 能 秋
曇入聖也け那くたその秋よか 通古

色よ出てつやしく 一と 花茎 表成
けつめ小家も 一と 一と 曲川

ふちの花 青羽乃 澄のよ 原と 面成
青洞を折本と 指やあちり花 洗家

宿又よと 一と 男藤乃 山路よ 存長
汗拭く花も 一と 一と ぬ地の花 静と

三

三

山

三十七

草

鳥

引

鳥

善光の松よりも修しふ知のむ 智秋
 可比の日は給阿のやぬ地のむ 新孝
 小海色也 夏候しとやはた一編 一聖
 子鳥や今雨も昔言 急去とき 一聖
 草麦のうきをけふ木村一銭うれ 聖井
 鳥雲入るや入るよ鳥 添ふあらし形 芳臨

久結山より南海眺望

雲雨入るや兄や 万清もけり 俄五
 引鶴や善よよね知のや松川 二極
 走るふやんくても清雲鶴の引 俄友
 ころのあ遊戸少く篆す市の花 山月

汲く水ん阿遊のきるとく光危 井之
 夫口の濱一よう

お

喜

水明きしてハを糸々里流の小結 水
 生垣の刈こころ層や 永世
 たまささうと清しを雲のふれが 永世
 甲羅て又まうたえて 永世
 何よりやもぬいさ塔一喜也やま 永世
 松ふ木と眼のうらふ喜の山 永世
 見らば不丸よりつくや喜の山 永世
 喜の山油をゆるし傳のりより 永世

山

三十七

庭の燈けりし溜まりの燈しけり
不足の音をたてしや仰る夕陽
甘菜
美香

鳥鳴集

紙葉軒野井 撰
埴之屋一理喜
季秋庵俄又 校

夏之部

四月
衣裾より出くよくあふ四月
足阿らふ所の海色も四月
人の身ぬりよみ跡の山んふ
魚川岸へ出て眼の光る四月
朝を鳴花ををきき四月
芝原の古川すち柳のまき四月
逸閑
琴堂
松瑞
之定
菊敬
梅山

子あうま野寺うさな戸の口堂
 野井
 水 山と水
 井井
 一理寺
 芳草
 徳良
 香洲
 桑古
 小葉
 三三
 甘茶
 青七
 一葉

初菰と孫の目をうささるぬり
 神菰子
 一葉
 内て喰ふ初ハ菰子
 初菰子
 長興
 喜園
 川舟の三里やさし
 舟用定
 由誓
 喜洲
 松魚
 安もれハ雲気も那
 一葉
 松什
 帆尾

日ちとく昼の旅籠や初木魚
 赤きの市を浮舟かど同色も
 けつろつを二ういの客も碇よりり
 引おき来れまらつをのき老お
 う里きりて清く昼茶の相魚外
 響を明をるるまや河をあらし
 肌よそをよれたるるをり阿茶茶
 枝子枝のつるをえん寸あ奴岸
 楊あけう帆をけし舟や 青嵐
 青あらし吹や筏のほく 河
 を江八葉の中あは障明巻

ま

牡丹

青あらし 柳 梅 扇 貴利 けり
 曇りて徳む蠅もあぬほくあく北
 静きを流名よ白まけるにう菊
 根あつく足ぬくハすほを二のふ
 ふりけまると喚て一香乃牡丹外
 ちるは夜眼鏡を拭ふほあより船
 必り理のりときーと云牡丹外
 大雲手受てひききーと日草外
 牡丹兒の所中よ阿西や黒茶炭
 小寺まおくま庭のお古あいのめ

俄左 風前 赤甫 二黄 是之 来伍 兼兒 西山 風志 月醒 梅係

多き世故のゆゑ申そけしつふ 夢景
 一ゆらぬ来て 事をはやみ子む 夢心
 静しく宿るけし せしむるなり 一知
 そよよまき草の中 けしや所子む 納月
 白けし 一はさあらし白支園花 野井
 うのほやいこうまの雪のし ちのふ 山
 卯のむや 舞わす暗を待けし 舞見
 うのふふふふ 毛を今 阿計比 舞見
 卯はむや 舞ちう 家の裏をまて ひとと
 うのふふ 新清辺むや 三日の月 舞見
 卯のふふや 事なすを 大はる 亦南

相む 思込て 日和白ふや 夢心 吾東
 葉と 雪の 一みもけし 門の相 清水
 去年の 実を 抱えて 咲やきりむ 相月
 一ハ 空舞傘や 舞もさぬ方 けし 昼の月 桑山
 粟む けし ぬるふり ぬるけし けし 風沈
 粟乃 糸志 けし けし けし けし 長共
 物む 物む けし けし けし けし 長共
 材む 材の 糸舞 けし けし けし けし 長共
 山麓む けし けし けし けし けし 長共
 撥桐を あり 風も 志ふぬ 舞や 寸路の 糸 一理
 荊花 舞う けし けし けし けし けし 長共

桑根

眼よかち時和くふいの教よきり
はさろくや香の藤みろく長命寺

聖井 桑古

桑根

桑根よ江連流のれや一むら境
そなろらや夕虹きえく竹の空
桑折のーくそ米つく男ふ

桑折 桑古

智恩院

梅実

是那りとお聲し梅を心梅の實

梅村

横濱何野山

梅

梅より西已た中より村路山

喜山

一山をある題目より去る里うれ

見外

さげ月の光を古海か記

昨情

月代や梅の奥も あいささ

一氣

二ハチーたハ庄屋の志あり外

甘菜

川柳や志くつろーとや 琴

安女

お盆より御おりの多ちり時

我病と柳よ野山のーくり

聖井

友木まけの心友を限りやなみちち

杉山

水門よ 浮橋の音や一友木ま

等哉

木下宮白をまねて見る松光や木一たや

成年

歎當て火の物る名や出ーあやみ

素竹

夏よ家ありとおもるんたやこ

桑文

さきふに心をなれ 木一冬晴

平三

松尾松鐘の書よあはれ松ハハの二つ三つ 一覽

花ぬりてぬりて 静ふ松高都 一詩

竹の子や苗玉取はきともしやんを 漢相

柿の子や堀をき来戸の四柱原 一知

竹の子や伸るを見ても其きは 木精

蕪と手花きちやさーやたうの寄 葉外

付懸り居ふのころや 蕪高竹 西島

ハナをさそちりー初冬のほろも ぬ川

ふさふさ松のうへとま 不処福 是木

結衣かちまよいーてほろも 等我

時鳥 蕪 葵 時鳥

山あまぬハ都あり 柳さき 長洲

雲のきハたのきちり 本とま 唯彦

ときけつ 聲あけーかさね 勢平

ふらーとちみねけりてふれ 磯崎

百戸引おとの万也 時鳥 鯉丈

ちり雲のハ重立をやふれ 文友

つきまくとあはれもねー時鳥 高

まふちの足もやうーあぬ 赤外

子規移くやいれ又あーの 中 文也

うれらんとおろし末立や子規 菊能

写魂 聲のうらちを くら 丘鳥

枝 枝のほつ何れもさう白蛇 雪感

椰子 子も親も一はぬ蝶のり方 西馬

牛 牛をわくは葉も唯屋に毛虫 一聖

蝸牛 忙上風をたふありしこりあり 茶丸

子 何れも又兄は多かれしう 蝸牛 西外

子 生れしやめありしや木よかありふ里 雪井

蚕 蚕 とうとうも志んて哀きや 唐の塔 一聖

子 子子の力よありの 勤支るし 無志

子 近々のまきい極うとひま 風歌

子 森久れおのともわ 明のうら 一聖

子 かく近し麻あと思ハすのみは 西馬

子 大井川越えてきえそ昔あり 雪井

子 軒ししめししつのはねあり 西馬

子 結念の時まきありあり 一聖

子 氣かゆえんふをわりの 雪井

見る庭もみよ 玉守布のめり 林 砂
 出雲をぬ水に鯉のりありうれ 清書
 それく小舟みちたこの機うも 湯良
 竹破日 水控り日とて只遊り あり 西店
 今も極うも免うり竹の 女願 土守
 今も急た水わらぬ年我まらり 文友
 極う竹提り 船のふゆり 完臨
 今も付た竿て船の九層州のれ 毒友
 花言蒲鮮戸の けや笑うり白の中 細徳
 今もいくと桑又氣先をふあやめ 東枝
 石菖 石菖や書よ学たる眼押一まの 冬秋

藤花 藤乃花と扱み込けり 烟のうを 後和
 船雨のそなは 風吹む 隆成 二柳
 浮きや濁るをす侍寸咲ちこも 後書
 藤の 風のまらふ那れてさく 毒友
 皆花み成や海地のそ以もくさ 市猿
 川骨の一毛とさきや門なるき 毒洲
 川骨ねやるも狂さけさる 清書
 蓮池や水のそとさ 思ハぬ 毒友
 つ 参もくほさるぬらん 隆成 毒友
 蓮の葉の落を候てや ありと 野井
 夏葉 夏葉や海下みちさる 標のそ 毒友

蓮 蓮の葉の落を候てや ありと 野井
 夏葉 夏葉や海下みちさる 標のそ 毒友
 蓮池や水のそとさ 思ハぬ 毒友
 つ 参もくほさるぬらん 隆成 毒友
 川骨ねやるも狂さけさる 清書
 川骨の一毛とさきや門なるき 毒洲
 皆花み成や海地のそ以もくさ 市猿
 藤の 風のまらふ那れてさく 毒友
 浮きや濁るをす侍寸咲ちこも 後書
 船雨のそなは 風吹む 隆成 二柳
 藤花 藤乃花と扱み込けり 烟のうを 後和

蕙子草むほくと昼鳥見るや舟あり 井之

鼓子草や都下ふ交ふつゆきさる 通古

蒼う ね何れ追細の迹はる理 沈月

蒼むともぬく、昼影の嘆中り 純洞

了代よきめあやなりぬ苦乃む 逸海

静さの塵も移ふやこけ 西子

昔のむえと土地ぬれしちり 一理

ゆり伐てさへてあくや草の上 蒼凡

百合はくや昼もあけき程は 毒月

仲過と一瀬もつやゆりの花 吾東

物も焚て遊理の香も立ら 和光 鳳野

白百合のふてあきさのええ 純洞

凌宵や水あふ川河 越る 蒼凡

標へ出さ見れを知らぬ 桐林

うそ忍師の眼奴表の給ぬ 西子

あきさる朝のけし業ははる 一知

合飲なると船行馬の息つ 子本

旅路一機も夕かけ出果し 松仙

系路也師とあのかちをさる 大夢

むらさきまゝ空路むたう 峠良

系論もやむの巻こハのそと 月松

出地さあや濃汁けり 郎井

南天

龍妻

青梅

樽

桑実

又竹

南天の影を程のつちとて

龍子のやうにふりまきち

接子やよくとまのときと

喜うかやほくくと成れ

青梅のたより待てるに

体極よま梅ひらきあら

待中へあまのつゆは

桑のたやぶる色さう

又竹や披しよと送の

又竹よまあつちを

西耕

と路

大敵

赤茶

抱敵

无一

聖井

一聖

光雄

九起

柳盛

雲をまきとるの

あけや照るまう

あまのつゆは

月ありまう

あまのつゆは

あまのつゆは

あまのつゆは

あまのつゆは

あまのつゆは

あまのつゆは

聖井

完勝

聖井

聖井

聖井

聖井

聖井

聖井

聖井

聖井

檜 檜

もくあまうや海をへり漏れり支
火より初し望を極して帰るり
吾をさるるもりきり燃火をむし
友連て又あや居るや灯なり虫
吹かけし匂をおり一と火取居
氷ちり一色やほゆるのち一以
以きて左蘭をとりむたる都
海山や尾上の松とふ
二つと浪空城更なり雲う都
以飛鳥をとりしきりきり
あふりあしと立奈霞色初原たれ

出志 守屋 茂賢 古木 甘菜 柳壺 牡丹 梅之 風流 孩む 骨木

岩

青礫

水新

吟集

廣深の青ききり流ゆる
五穀吸ふ結搦床一間々の家
帝安き杖より出る鳥うれ
あま玉家やあけのよまけ
あましくや日ぬまけは美地
あましくもあましくは美地
さ波よ月けゆきあましく
何地へ吹風よ屋を吹渡る

論如大書

おぼろぎの影もあましくあましく
あましくあましくあましく

雲石 溪高 青木 美春 桑吉 守屋 板山 橋占 逸洞 之路

糸甲銘揚し竹芽もさる茶の本やねんまき在 静江
出ろくも水は表やうのめりり 深前
るてりりあはるる舟の綱りし 静江
町りうや旭のさしてものふつろ 杜鰲
生さしうり舟はるる つ峰の川 直島
つふもろ歌も如も うの翁 語談
と茶さりしとを 粉匠くれ 名山
益々二川中見さるうの山くれ 俄互
所留場を念点うやうり通志略 琴中
やまおや足るぬらうの山園号 静江
舞臺や西羽札のま 杭 先 一程堂

道略
藥
櫻雲

鹿子 弛もしる其故ハ身ぬ麻子ハ 茶丸

總持 木の園を幸あうを糸らひうり 新巻

火串 舟の出で火さしお暗の庭なり 書系

星をとうさるるを破れ木臨水 菊野

去とのるを桐地や送火さしる 柳夢

人持の陸果しはたさしう南 傍良

旅人の頻りなやむ火くしり 吟風

もし滑て身も荒えあり山の吟 望井

ともしみてあはれを露おく杖外 西耕

足守の有形しりりせつらまふ天 子守

梅雨

田畑や梅雨も名残の夕暮よ紅

完臨

明けけう誓対ふらわやつ西の空

紫聲

梅雨小入空を葉立の鳥う那

琴和

柳奈る塵く梅雨のたてこしの南

一休

五月向さるるのたてこすは岩屋の煙

然池

咽さる梅雨戸口を久那

左一

五月雨の芽来てくはやちか梅雨

若木

五月向さるるのたてこすは

不月

水程の仲と木よ那くさは多向

泉柳

那きぬ雨は淋しと深し五月雨

吾我

旅えは那ぬるは那くはさるる

汀砂

船空

白は元や佛乃を我

砂粒

黒き文黒もく二妙き我の帆の

真古

五月雨のたてこすは

杜水

五月雨のたてこすは

新水

五月雨のたてこすは

新水

新水のたてこすは

新水

新水のたてこすは

新水

新水のたてこすは

新水

新水のたてこすは

新水

新水のたてこすは

新水

新水のたてこすは

新水

以つて万々人徳里て何屋はま
 明やまきよよもあまは本多ありふ
 明やまきよあまあまあまのあま
 友の春よあまあまあまあまあま
 夏秋

芙蓉ふみ人難

羅や着れのおふ
 羅や着れのおふ
 羅や着れのおふ
 羅や着れのおふ

帷子

帷子やあまあまあまあまあま
 帷子のあまあまあまあまあま
 帷子のあまあまあまあまあま
 帷子のあまあまあまあまあま

近きもあまあまあまあまあま

人中のあまあまあまあまあま
 人中のあまあまあまあまあま
 人中のあまあまあまあまあま
 人中のあまあまあまあまあま

六月

六月やあまあまあまあまあま
 六月やあまあまあまあまあま
 六月やあまあまあまあまあま
 六月やあまあまあまあまあま

水母月

水母月やあまあまあまあまあま
 水母月やあまあまあまあまあま
 水母月やあまあまあまあまあま
 水母月やあまあまあまあまあま

氷室 開ふりて素白たよく氷む路此 梅室
 横のそとに氷室のうら谷 智杖
 明利戸を後正清きくわ宛む呂守 獨良
 云妙算兄とやうし思ふ 兼平
 こゆり養丸もこらてもなうり 交精
 青きよのまごうり危夏あゆり 雪室
 せうり市 消えて存るは驚う南 聖井
 不二猶日や雪まふ足は針て初二よりを 善芸
 懐中のけん約ふ事やふこまうを 一和喜
 細園舎祇園舎やおさハ押し教人の中 外友
 五神楽笛の音やままよき舞れるなうらふ 篤海

氷室 西より森り足込もがう 夏神楽 相夢
 おもひもそれく きて赤定塔 善吟
 初縁はよる人若々と赤祥ふん 喜和
 やくまもまふ人も舞うる嘉是唯 一和喜
 二用下よみ書ハ残重んぬむ死土用牙 善兄
 はあのをたうろおまよとよう海り 柳盛
 虫本一受けらうけけ聖難かふ 梅弟
 清干ろあまうひあやねる楓 芝雄
 鳥を白や雪用の用のえり主 清民
 めまきく といふ静も 善ののみ 木枝
 黒日や 居里雪喜も舞ハあうら 雲

長

三十三

蟻の引おらちのめあつさうも
 二島の仲又眼のつくあつさうも
 我室の外又隠ぬまのつさうも
 野かたのいよくまの支 巽さうも
 若くはちゆしてちらふ巽さうも
 水かたのつさうもあつさうも 巽さうも
 井水

性解性逸

日暮 物もさうさう何つさうも
 口もさうりや冷も通さぬさうも
 冷天やひるも冷のまふ木のる
 冷天やひるも冷のまふ木のる
 冷天やひるも冷のまふ木のる

夕立

白気

雲峰

炎天也 水を呑ぬも 旅功志 春雲
 夕立や風うきかたぬ一志雲
 白氣をくはく烟爰や澄し度理
 白氣をくはく神あつさうも びら松
 白氣のぬまふま肌のかさし
 白氣のぬまふま肌のかさし 竹里
 大日枝も水へあつてらふのこ
 大日枝も水へあつてらふのこ 赤雨
 雲峰のつさうもあつさうも
 雲峰のつさうもあつさうも 竹南
 雲峰のつさうもあつさうも
 雲峰のつさうもあつさうも 文車
 雲峰のつさうもあつさうも
 雲峰のつさうもあつさうも 雲月

夏月

よしの経糸尾茂古山こまらの月 みる
 夏の月更て静やら足 あり布 以静
 雨く同や何少きかふるあつこの月 丁美
 け灯のこまら人那くまほのほき 藤原
 けくくと産本静れて夜多日 秋左
 くれをきき海辺りるむや夏の月 春心
 ふおもちあふ川鴨や那ほのほき 小菊
 は電すまらふまきまき水つは月 抱盛
 粒の樹よ暗き ねさる夜の月 如燕
 りふもまや午刻中出りる風黄 守家
 漁火も退くふ魚子う散らる 聖井

風黄

青東風

青東風 春東風や人込ぬけー葉寛らき 吟風
 まきまのさや中のうま二日月 英山
 ちともりそ持安う感あまふ 岱年
 けく人あゆみきりくさ暗の門 壮山
 志とるほきつふ月夜あふき外 好水
 高鳴くく 長望やまらーまき 竹精
 けの石あふまかさーてん巻危 石介
 際ふ方のまみぬまきあふまき 菜吟
 垢つるうらのきあきあふまき 歌郎
 うらふほきあふまき 茶良の苦うり 謝徳
 けいーまきあふまきあふまき 紫雲

高石

用形のあらわな利一固存代 井之
 相借よ来とそ子よ取り知まら 以て
 更うはて暖きもあつたさうさふは 幸海
 二之可成色見よけうあきさる 他山
 汗の衣旅籠の一間あきけあり 春山
 汗拭の兄明し嬉し何と嬉さる 一程春
 掛香とともよ見えすく肌へは 茂習
 日傘よ出て手乃そ却志日傘が 新南
 名日傘や車て兄より開い車利 文車
 菓子かくて口あきせ一寸忘さう 井陸
 新戸出やたみ日さのいあらは 吉宣

簾

簾の万乳をさくきとく簾 街通
 相親や月を杖有りたさのわら 徳神
 竹まて 留まのほや白濁かる味 梅宗
 とりと更ぬせをらう竹まて人 守黒
 法山のあけぬかあり竹まて人 彦宗
 抱孫や夢の玉結も傳はる寐入 一程喜
 涼と喜うらうの河きれり船 春山
 籠控まくる人もきすささ 翁云
 一日のまらぬあらう涼と外 西馬
 水打も明きは涼一店のさき 言大
 春家の輝り一松や夕涼り 中ら

清水

井水

山すき 懐はつ〜〜と 悟〜〜の
 牙ひらののいと 涼志さや 妙ま〜
 去〜〜さや 丸支 橋上 泊る 響
 せ〜〜子よ〜〜と 涼志
 月す〜〜再入 涼志のす 石川
 涼〜〜さや 石屋の 志は 橋の 先
 安は 岸を さんて ありや 砥石 家
 子自由〜〜と 座と 物 志 行 夕 す
 若く 探出 けいけい 水うた 志 危
 井水 水 ありの 鳴り あり あり
 泉の ありの ありの ありの ありの ありの
 呉石 聖井 毒山 井水

井

五ヶ敷 山田 あり あり あり あり
 日毎 和く ありの 下と 若〜〜と あり
 多〜〜は ありの ありの ありの ありの
 流連 けいけい ありの ありの ありの
 若〜〜と ありの ありの ありの ありの
 ありの ありの ありの ありの ありの
 息つ〜〜と ありの ありの ありの ありの
 子 杖と ありの ありの ありの ありの
 晒井 ありの ありの ありの ありの
 さら〜井 ありの ありの ありの ありの

一板酒

くちりくちりと押さふ交へ 一板酒 御酒

心太

一板酒汲や日比の辞教すもて 一理在 而取

高水

活う枯らばつらひうらや 九龍 研古

冷汁

乃つきよ少味中ら礼帝り心太 静海 茶茶

くも水や舟来た人糸葉の代り 茶茶 茶茶

麴

一編も細へも細はひ中一志は 茶茶 茶茶

田と細くも心見まらやひや一汁 茶茶 茶茶

ひや汁も更き程居るを月人数 茶茶 茶茶

温泉の和 免た之は冷し一も 茶茶 茶茶

麦粉や弛もあつるも 谷の水 茶茶 茶茶

麴也あといふを流い上は回士 茶茶 茶茶

梅干や漬くけ際てあち乃多ふ 茶茶 茶茶

枇杷の実や目もあつるもとやえ一 茶茶 茶茶

百日紅百の紅葉の中けてれ口う那一 茶茶 茶茶

夏草 左その密いうあはれ日初らあ 茶茶 茶茶

また草とお取しそよまやま草 茶茶 茶茶

出羽の邦大酒を望こ 茶茶 茶茶

よくもは遠二つさつゆも 茶茶 茶茶

くちり 寧ろまきこく 茶茶 茶茶

えぶらうらうらに穂み出ておよけま草 茶茶 茶茶

茶茶 茶茶 茶茶 茶茶 茶茶 茶茶 茶茶 茶茶 茶茶 茶茶

生草向いの少人茂松の中よりと ま久を瓜 菅南
 手拭よりむ志桑よりやけ う南 一為
 夕島や伏樋のし宛ら 湯之河 海程
 夕敷や羽理心のふととてすし 炭牛
 せふうや母の望る綱代垣 月本
 夕島やひらそせまてういむ 月本
 夕敷の下の海色や 老たし編 喜喜
 青田すく家へけし桑やはく所 無堂
 夕一を阿や田麻りき山終りの水 喜方
 一家にうそ一玉に手興す
 用事のりり滑りまらるあを田に 妙意

川へ出るとん生理青田の館り水 聖井
 田子取らぬを凌ぐ掛も形一田子取 表反
 川ありや葛お灰しハあらしき 茂懸
 川よりや今物もましはあらし 其影
 こつせもと出ると川かりの河より急 水巻
 まさしよ汐のまるとやあきと難中水 杜木
 祖石より一白ふやし河能 急浦
 祖の家を森の赤と繋りようり 芥寮
 朝の間よを市むけり昼梅のふ 兄外
 草茂水と月の蓋ふして昼高水 皆如
 物存めおと再よ入るひねくれ 雲雲

